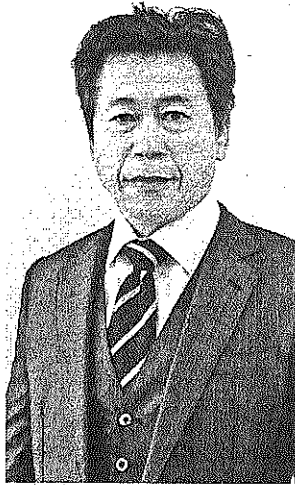


# 太陽光発電所の次世代型 O&M普及に向けて

## (二社)新エネルギーO&M協議会 代表理事 高根沢 喜美一



へ啓発し、技術修得や実施の支援を目的として2018年5月に発足し、お陰様でもまもなく3年となります。

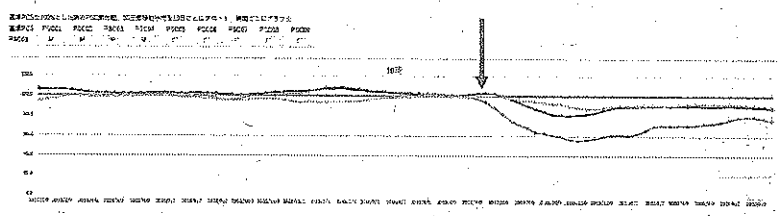
この間「O&M丸ごと立ち上げパック」など業務に即した研修を行いながら、低圧発電所のO&M普及のために活動してまいりました。

未曾有のコロナ禍により、昨年は大変な一年となりました。感染の第3波到来により正月のめでたさも感じられず先行きたさも感じられませんが、不安は隠せませんが、新年の門出にあたり一言ご挨拶申し上げます。

当協議会は、「太陽光発電所の長期安定稼働のため、建設、運転およびメンテナンスに係るマネジメントに関する制度、技術、方法等を企画・開発し広く一般へ普及する」とともに、当法人の会員

新エネルギーO&M協議会/エナジービジョンが共同開発したアプリで取得可能な、発電量のPCS間比較推移データ(野立て・低圧発電所)の例(提供:新エネルギーO&M協議会/エナジービジョン)

・基準PCS(下記データでは03番)を100とした相対比較の推移(毎日10時のデータ)  
 ・19年7~8月ごろから、下落が始まっている(特にPCS02)。  
 ・保守点検ではこの観点で、原因へのアプローチが求められる。



昨年、管内閣は脱炭素社会に向け、「2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロ」を表明した。すでに国内向けに、国内到る所に発電所

本太陽光発電所は2012年から始まったFIT制度に沿って劇的に増え、国内到る所に発電所

は今後の太陽光発電の社会的使命となります。当協議会は、太陽光発電所のO&M事業が、社

が見受けられますが、今後は名実ともに日本の環境政策の柱として重要な一翼を担っていくこととなります。

「すでに稼働している太陽光発電所、これから建設する太陽光発電所それぞれが、持つ能力を最大限に發揮すること」

日本の再生可能エネルギーの安定供給を下支えする一員として、全力を尽くす所存でございますので、今後とも一層のご支援、協力を賜りますようお願い申し上げます。

が、今後は名実ともに日本の環境政策の柱として重要な一翼を担っていくこととなります。

「すでに稼働している太陽光発電所、これから建設する太陽光発電所それぞれが、持つ能力を最大限に發揮すること」